

[講演要旨] 明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果 について(その5)

久永哲也*(1)・内田篤貴(1)・小川典芳(2)・浦谷裕明(3)・武村雅之(3)・都築充雄(3)
(1)日本物理探査株式会社 (2)中部電力株式会社 (3)名古屋大学減災連携研究センター

§ 1. はじめに

筆者らは、東海地域における明応年間の津波被害について現地調査を行ってきた(既報告～その4)。

これまでに、東海地域における明応年間の被害記述について、現地調査を行うとともに、明応七年八月二十五日がその発生日として知られる1498年明応地震津波(「明応地震津波」と記す)と、明応七年六月十一日の地震津波とを区分し、「明応地震津波」の震源・波源像の広がりについて検討してきた。

本研究では、既報告に引き続き、「明応地震津波」とされる津波被害の記録が比較的多く残されている駿河湾沿岸を中心に、同地震津波に関する被害を整理・検討した結果を報告するものである。

§ 2. 経過報告

① 静岡県焼津市 ＜教念寺(小川)＞

『駿國雑誌(昭和五十二年発行)』に「當寺開山觀譽上人は、(中略)明應年中、禁中雨乞御祈禱あり、召に應じて上京す。然に明應七年、此浦海口有て、近郷の里民溺死する者數千人、溺死人の骸を集めて骨堂と稱し、地蔵を安置す。又小院を建立して供養をなす。今の教念寺是也。」と記されている。一方、

『祐崇上人五百年遠忌記念 浄土宗十夜始祖 大本山光明寺第九世 觀譽祐崇上人について』から祐崇上人の上京の記録をみると、「明応四年(一四九五年・五十九歳)三月上洛して宮中において、仏説阿彌陀經を講義」、「文龜三年(中略)天気つづき大旱魃となった。(中略)天皇は(中略)再び祐崇上人を京都にお呼びになって、雨を請う勅宣を賜った」とあり、教念寺の縁起を「永正三年(七十歳)志太郡小川村(焼津市)に教念寺を立てる」、「この時、小川村は悪病流行し(中略)死骨を集めて一ヶ寺を建ててこれを教念寺と名付けた」としている。上京の時期が『駿國雑誌』と食い違い、教念寺開創の契機も異なる。觀譽上人の足跡を辿ると、後者の縁起と考えられる。

＜焼津小川周辺の津波被害＞

既報告(その2)では、焼津の海岸線における明応地震・津波の被害は、地盤変動によるところが大きいと考えられることを報告した。

これに関し、焼津市小川湊においては、『ヤシャンボー 焼津市南部地区民俗誌』に、「明応七年の大地震と大津波によって、所によっては隆起や沈降が生じて湊の様相は大きく変わったものと思われる。小川城を中心に考えた場合、(中略)軍事的な利点を損ねたことが考えられるが、湊としてはその後も今川領内の重要な公易港であった。」と記されている。

②静岡県伊豆市＜妙蔵寺(八木沢)＞

八木沢を襲った津波の伝承について、都司・他(2013)は明応地震、羽鳥(1977)は宝永地震によるものとしている。妙蔵寺の山門付近には、『安政東海地震(一八五四年)の記録』と題した、当該伝承を記した石碑が建てられ、「安政元年十二月二十三日五時半時大地震(中略)大川に押し入った津波は當山の門前小山田川を遡上し、この地にあった榎木の枝に海藻が引っかかっていた」とされている。先代ご住職の佐治寿英氏は、「安政地震による出来事として寺に伝わっている。当時の海岸線は現在の国道辺りで、津波は石碑の直ぐ横を流れる小山田川を遡り、榎木に海藻が引っかかった。妙蔵寺は1504年に真言宗から日蓮宗に改宗し、改宗以前の事は何も伝わっていない。過去帳は文政十三年(1830)から残され、安政地震津波による被害者も記されている。」とされた。

③静岡県三島市＜玉澤妙法華寺(玉沢)＞

近年、明応四年八月十五日に相模トラフを震源とする、「明応関東地震」の存在が示唆されている。

玉澤妙法華寺は、鎌倉の浜土にあった日昭上人の庵室を弘安七年(1284)に寺院とし、天文七年(1538)・文録三年(1594)の二度の移転を経て、現在地に至る。鎌倉の旧地は現在実相寺が建っている。

宝暦ごろ(1760年ごろ)、当時住職の日通上人が寺の縁起を『玉沢手鑑草稿』にまとめた。これを要約すると、「当山の靈宝古記等は、鎌倉が激波に襲われた時に一箱を残して流失してしまった。この激波は古記等が残されていないが、永仁元年(1293)か、明応四年(1495)八月十五日による津波と考えられる」とし、日通上人は「明応四年の地震津波によるものではないか」と推察している。

現在、境内には中鐘楼堂がある。創建年代は不明であるが、記録によると鎌倉より移築、とあり靈宝等を流失させた激波は、中鐘楼堂を流失させるほどの津波被害ではなかったと考えられる。

§ 3. 終わりに

明応年間の津波被害について、駿河湾における現地調査の結果を報告した。これまで「明応地震津波」とされていた被害記述の中には、「明応地震津波」による被害でないと思われるものもあり、これらの検証も含め、「明応地震津波」の全体像について総合的な検討を行っていく。

謝辞

調査にあたり、貴重な情報をご提供頂きました妙蔵寺前任住職佐治寿英氏、ならびに玉澤妙法華寺の御住職には深く感謝いたします。